

(様式3号)

学 位 論 文 の 要 旨

氏名 原田 竜三

〔題名〕

救急医療施設で亡くなる患者の家族介入プログラムの評価に関する研究

〔要旨〕

1. 研究の目的

本研究では、救急医療施設で亡くなる患者の家族への看護介入プログラムを作成・実施し、家族の悲嘆反応の軽減に効果があるかを検証した。また、この介入プログラムの妥当性を検証した。

2. 研究の方法と結果

【研究1】

「救急医療施設で亡くなる患者の家族への看護介入プログラム作成のための調査」では、救急医療施設の看護師にインタビュー調査を実施し、調査結果と文献検討から、救急医療施設で亡くなる患者の家族に対する介入プログラムを作成した。

【研究2】

「救急医療施設で亡くなる患者の家族に対する看護介入プログラムによる遺族の悲嘆反応」では、39名の家族に救急医療施設での介入を実施し、22名の家族から回答が得られた。Tatsunoらの研究データを対照群とし、比較した結果、介入群の方が悲嘆が強く、ストレス対処ができていないことが明らかとなった。治療やケアに対する評価はよかったが、悲嘆得点との関連はなかった。

【研究3】

「救急医療施設で亡くなる患者の家族に対する看護介入プログラムによる遺族の悲嘆反応（事例研究）」では、介入プログラムを実施し、面談調査に応じてくれた2名の遺族より、死別後の悲嘆反応、生活での様子、看護についての受け止めを聞くことができた。

【研究4】

「救急医療施設で亡くなる患者家族への看護介入プログラムに対する妥当性の検討」では、全国の救急医療施設で勤務する看護師359名に調査をした。介入プログラムの項目は、危機介入、悲嘆ケアにおいて、実践可能性、実施度、重要度が高く、内容妥当性は高かった。死別後のケアにおいては、1項目のみ内容妥当性が得られた。31項目中27項目の内容妥当性が認められ、介入プログラムは概ね妥当であった。

今後の展望

今後は、介入群の対象者数を増やせるよう複数施設で取り組み、遺族ケアの有効性が明確にわかるように、同一施設での前後比較研究をチームで取りくむことが課題である。

学位論文審査の結果の要旨

報告番号	甲 第 1734 号	氏 名	原田 竜三
論文審査担当者	主査教授 永田 千鶴		
	副査教授 伊東 美佐江		
	副査教授 田中 愛子		
学位論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 救急医療施設で亡くなる患者の家族に対する看護介入プログラムの評価に関する研究			
学位論文の関連論文題目名 (題目名が英文の場合は、行を変えて和訳を括弧書きで記載する。) 救急医療施設で亡くなる患者の家族への看護介入プログラムに対する妥当性の検討			
掲載雑誌名 山口医学 第 74 巻 第 1 号 P. ～ (2025 年 3 月 掲載予定)			
(論文審査の要旨) 本研究は、救急医療施設での家族ケアと死別後のケアを含めた看護介入プログラムの作成とその妥当性の検討を目的とし、家族の悲嘆反応の軽減への効果、臨床看護師による実施度と重要度の認識、内容妥当性の視点からの検証を試みたものである。 序論では、国内外の文献検討を基に悲嘆反応や家族ケアに関する概要が整理され、第Ⅱ章では看護師 20 名への面接調査により、救命センターでの危機介入と悲嘆ケアから救命センターから退出後の死別悲嘆パンフレットの配布および電話によるフォローアップと面談の 4 つのプロトコールからなる介入プログラムを作成している。第Ⅲ章では作成した介入プログラムを 78 名の家族に実践（介入群）し、有効回答者 22 名と先行研究のデータ（対照群）との比較分析、2 つのデータを合わせての重回帰分析により評価を行っている。第Ⅳ章では、第Ⅲ章の有効回答者 22 名のうち 2 名の事例研究により悲嘆内容の詳細から実践への示唆を得、第Ⅴ章では、クリティカルケア領域の看護師 670 名を対象にした量的調査により、危機介入 22 項目、悲嘆ケア 5 項目、死別後のケア 4 項目の 31 項目で構成される介入プログラムの妥当性の検証を行った。実践可能性 3 点以上、重要度 3 点以上、Lynn I-CVI 0.78 以上を全て満たすことを介入プログラムの妥当性の基準として検証し、27 項目に精錬させた。第Ⅵ章では研究を総括し、今後の課題を述べた。 本研究は、救急医療施設で死亡した患者の家族への介入プログラムの開発という、重要ではあるが、そもそも介入が難しい上に、その評価・検証までを実施した学問的な価値や社会への貢献度が高い独創的な研究だと判断する。論文構成、対照群の設定方法や実証方法の吟味および統計分析方法などに課題はあるが、この研究で得られた重要ではあるが臨床で実践するには困難な介入項目について、実現可能な体制づくりまでを含むことが望ましく、研究の継続と発展を期待する。			

備考 審査の要旨は800字以内とすること。